

東京都歯科保健推進計画における指標一覧

指標		現状値	目標値	
ライフステージに応じた歯と口の健康づくりの推進				
乳幼児期	むし歯（う蝕）のない者の割合（3歳児）	88.5%	90%	
	甘味飲料をほぼ毎日飲む者の割合（3歳児）	26.0%	減少	
	ゆっくりよく噛む習慣づけをしている者の割合（3歳児）	59.4%	増加	
	かかりつけ歯科医を持っている者の割合（3歳児）	48.5%	65%	
学齢期	かかりつけ歯科医で定期健診又は予防処置を受けている者の割合（3歳児）	43.3%	60%	
	むし歯（う蝕）のない者の割合（12歳）	64.0%	70%	
	むし歯（う蝕）のない者の割合（17歳）	45.0%	60%	
	歯肉に炎症所見のある者の割合（17歳）	26.5%	20%	
	フッ化物配合歯磨剤を使用する者の割合（12歳）	29.8%	70%	
	かかりつけ歯科医を持っている者の割合（12歳）	57.6%	80%	
	かかりつけ歯科医で定期健診又は予防処置を受けている者の割合（12歳）	38.3%	55%	
成人期	喪失歯のない者の割合（35歳～44歳）	63.6%	75%	
	24歯以上ある者の割合（55歳～64歳）	70.0%	増加	
	進行した歯周病を有する者の割合（40歳～49歳）	40.8%	30%	
	フッ化物配合歯磨剤を使用する者の割合（20歳～64歳）	30.9%	70%	
	デンタルフロスや歯間ブラシを週1回以上使用している者の割合（20歳～64歳）	62.1%	70%	
	糖尿病や喫煙が歯周病のリスクであることを知っている者の割合（20歳～64歳）	糖尿病	47.2%	60%
		喫煙	54.3%	75%
	かかりつけ歯科医を持っている者の割合（20歳～64歳）	86.7%	90%	
	かかりつけ歯科医で定期健診又は予防処置を受けている者の割合（20歳～64歳）	58.0%	70%	
	高齢期	8020を達成した者の割合（75歳～84歳）	55.5%	増加
フッ化物配合歯磨剤を使用する者の割合（65歳以上）		25.2%	70%	
デンタルフロスや歯間ブラシを週1回以上使用している者の割合（65歳以上）		59.5%	70%	
糖尿病が歯周病のリスクであることを知っている者の割合（65歳以上）		53.7%	70%	
かかりつけ歯科医を持っている者の割合（65歳以上）		96.2%	増加	
かかりつけ歯科医で定期健診又は予防処置を受けている者の割合（65歳以上）	64.6%	70%		
かかりつけ歯科医での予防管理の定着・医科歯科連携の推進				
かかりつけ歯科医を持っている者の割合（3歳児）（再掲）	48.5%	65%		
かかりつけ歯科医で定期健診又は予防処置を受けている者の割合（3歳児）（再掲）	43.3%	60%		
かかりつけ歯科医を持っている者の割合（12歳）（再掲）	57.6%	80%		
かかりつけ歯科医で定期健診又は予防処置を受けている者の割合（12歳）（再掲）	38.3%	55%		
かかりつけ歯科医を持っている者の割合（20歳～64歳）（再掲）	86.7%	90%		
かかりつけ歯科医で定期健診又は予防処置を受けている者の割合（20歳～64歳）（再掲）	58.0%	70%		
かかりつけ歯科医を持っている者の割合（65歳以上）（再掲）	96.2%	増加		
かかりつけ歯科医で定期健診又は予防処置を受けている者の割合（65歳以上）（再掲）	64.6%	70%		
障害者施設利用者のうち、かかりつけ歯科医で定期的に歯科健診を受ける者の割合（医療型障害児入所施設を除く）	78.8%	90%		
周術期口腔ケアにおける医科歯科連携を行っている歯科診療所の割合	21.8%	30%		
地域で支える障害者歯科医療の推進				
障害者施設利用者のうち、かかりつけ歯科医で定期的に歯科健診を受ける者の割合（医療型障害児入所施設を除く）（再掲）	78.8%	90%		
障害者施設等で定期的な歯科健診を実施している割合（医療型障害児入所施設を除く）	57.4%	70%		
障害者に対応する歯科診療所	42.7%	50%		
在宅療養者のQOLを支える在宅歯科医療体制の推進				
在宅医療サービスを実施している歯科診療所	13.5%	増加		
介護保険施設等で定期的な歯科健診を実施している割合	21.1%	50%		

東京都歯科保健推進計画の推進に向けて

東京都は、区市町村をはじめ、教育・保育関係者、歯科医療関係者、関係団体、保険者・事業者とともに、それぞれの役割を果たしながら、都民の歯と口の健康づくりを推進していきます。

東京都歯科保健推進計画 「いい歯東京」

概要版

都民のみなさんが、いつまでも健康に暮らすために、歯と口の健康はとても大切です。この計画は、都民のみなさんが目指す姿を掲げ、自ら実践をしてもらいたいことと、そのために東京都が総合的に進める歯科保健施策を盛り込んで策定しました。



都民の目指す姿

都民がいつまでもおいしく食べ、笑顔で人生を過ごすことができること

都民の
取組

- ◎ 生涯を通じて食べることや会話を楽しむ
- ◎ 日常的に自ら口腔ケアに取り組む
- ◎ かかりつけ歯科医で定期的に保健指導や歯科健診、予防処置を受ける

4つの計画の柱

1

ライフステージに応じた
歯と口の
健康づくりの推進



2

かかりつけ歯科医での
予防管理の定着・
医科歯科連携の推進



3

地域で支える
障害者歯科医療
の推進



4

在宅療養者の
QOLを支える
在宅歯科医療体制の推進



かかりつけ歯科医を
持ちましょう

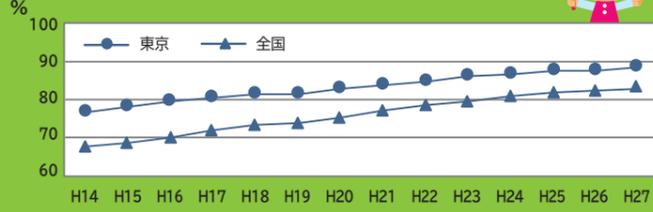
歯が痛くなったら行く。年に一度は行く。ひとくちに「かかりつけ歯科医」と言っても、そこに期待していることは人それぞれです。治療だけでなく、予防処置や医療・介護のコーディネーターの役割を果たすこともあります。ライフステージに応じて、「かかりつけ歯科医」の機能を活用しましょう。



都民の口腔内の状況

乳幼児期

むし歯のない3歳児の割合

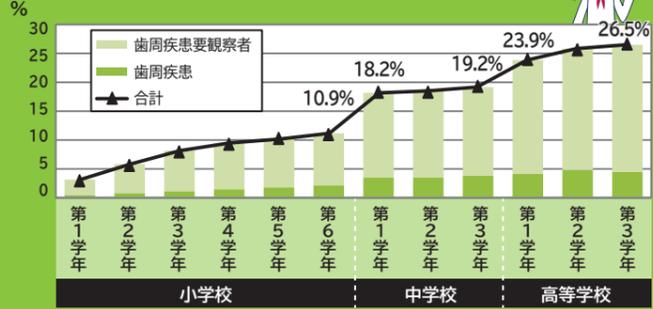


資料：厚生労働省「母子保健課調べ (H25まで)」、「地域保健・健康増進事業報告 (H26から)」

むし歯(う蝕)のない3歳児は年々増えており、全国平均よりも高くなっています。

学齢期

歯肉に所見のある児童・生徒の割合

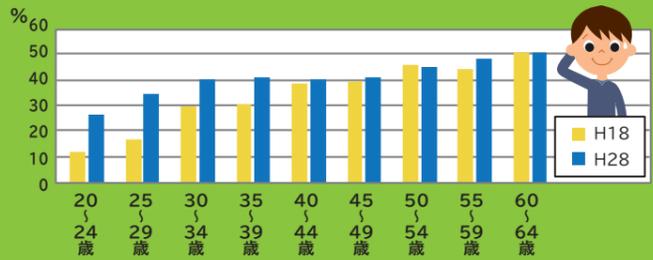


資料：東京都「東京都の学校保健統計書」(平成28年度)

進学するにつれて、歯肉に問題がある児童・生徒が多くなっています。

成人期

歯周ポケットが4mm以上の成人の割合



資料：東京都「東京の歯科保健」(平成18、28年度)

若い世代から歯の失う原因の一つである歯周病にかかっている都民が増えています。

全身の健康は口の健康から

歯を失う原因は、主に歯周病とむし歯(う蝕)です。若いときから、正しい知識を持ち、正しく行動すれば急激な歯の喪失は防げます！

口腔機能は食べることや会話をすることに关わる重要な役割を果たしています。しっかり口腔ケアを行い、しっかり噛んで食べましょう。



ライフステージに応じた歯と口の健康づくりの推進

	乳幼児期	学齢期	成人期	高齢期
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ○乳歯が生え、食べる機能を獲得する時期 ○乳歯はむし歯(う蝕)になりやすいため、保護者の仕上げみがきや定期的な予防処置が大切な時期 	<ul style="list-style-type: none"> ○乳歯から永久歯に生えかわる時期 ○進学等によりライフスタイルの変化が起こる時期であり、むし歯(う蝕)や歯周病の予防と生活習慣の改善に自ら取り組む習慣をつけることが大切な時期 	<ul style="list-style-type: none"> ○歯周病の増加と悪化が進む時期 ○自分の歯や口の健康に対する関心が薄れる時期であるが、自ら行う口腔ケアと定期的な健診や予防処置が大切な時期 	<ul style="list-style-type: none"> ○歯の喪失が進み、口腔機能が低下する時期 ○フレイル予防のため、食べる、話す、笑うといった口腔機能を十分に使い、口腔ケアを続けることが大切な時期
都民の取組	ライフステージごとの特徴を理解し、自ら口腔ケアに取り組む			
都の取組	かかりつけ歯科医を持ち、定期的に保健指導、歯科健診、予防処置を受ける			
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ○むし歯(う蝕)予防と口腔機能の獲得への支援 ○フッ化物配合歯磨剤の効果や砂糖(スクロース)の摂り方の啓発 ○かかりつけ歯科医を持つ習慣を身につけることを啓発 ○多数のむし歯(う蝕)のある子供や保護者に対する支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○むし歯(う蝕)や歯周病の予防とともに、口腔機能や食育に着目した支援 ○口腔ケアの習慣や生活習慣の基礎を身につけることを啓発 ○定期的な歯科健診や予防処置の習慣化を啓発 ○中・高生を対象とした歯科保健行動の実態把握 	<ul style="list-style-type: none"> ○青年期を対象に、口腔ケアの知識や歯周病予防の大切さを啓発 ○全身の健康と歯周病との深い関わりについての啓発 ○全身疾患の治療に対する医科歯科連携の推進 ○周術期の口腔機能管理を推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢期の歯や口の特徴を踏まえたむし歯(う蝕)の予防や歯周病の予防を啓発 ○生涯を通じて食事や会話を楽しむことができる口腔機能の維持を支援



かかりつけ歯科医での予防管理の定着・医科歯科連携の推進

	かかりつけ歯科医	医科歯科連携
機能	<ul style="list-style-type: none"> ○ライフステージに応じて、 <ol style="list-style-type: none"> ①定期的・継続的に口腔衛生管理を行う ②必要に応じて口腔機能管理を行う ③必要に応じて医療・介護のコーディネーターとなる 	<ul style="list-style-type: none"> ○全身の健康と歯周病との深い関わりや誤嚥性肺炎の予防、周術期等の口腔内合併症の予防、在宅療養や摂食嚥下機能の支援などの面から、医科と歯科が連携し、歯と口の健康と全身の健康の両面からの支援
都の取組	<ul style="list-style-type: none"> ○かかりつけ歯科医の機能を正しく理解し、生涯を通じて自ら口腔ケアに取り組むとともに、かかりつけ歯科医で定期的に歯科健診や予防処置を受けるよう啓発 	<ul style="list-style-type: none"> ○全身疾患がある方の治療に、医科と歯科が連携して対応することを推進 ○周術期口腔ケアに対応する歯科医療従事者を育成し、病院との連携を推進 ○かかりつけ医や病院と情報共有を図り、在宅療養者の歯と口の健康を維持することができるよう支援 ○摂食嚥下機能を支える人材の育成・多職種連携によるチーム医療の推進



地域で支える障害者歯科医療の推進

	障害者
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ○むし歯(う蝕)や歯周病のリスクが高い ○環境の変化や治療に対する理解が難しい場合があるため、かかりつけ歯科医を持って、定期的な予防処置等を受けることが大切
都の取組	<ul style="list-style-type: none"> ○家族や施設職員に口腔ケアや予防処置の重要性を啓発 ○身近な地域で口腔衛生管理を行うかかりつけ歯科医の育成 ○口腔機能管理を行う歯科医師の育成 ○地域の実情に応じた機能の分担と連携の推進



在宅療養者のQOLを支える在宅歯科医療体制の推進

	在宅療養者
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ○口腔内が不衛生になることや口腔機能の低下により、誤嚥性肺炎を起こしやすい ○摂食嚥下機能の低下を防ぎ、歯と口の健康を保つことによってQOLを維持・向上することが大切
都の取組	<ul style="list-style-type: none"> ○在宅療養を支える家族や介護者へ在宅療養者の歯と口の健康を保つことの意義等を普及啓発 ○研修会の実施等による在宅歯科医療に携わる歯科医師の確保と育成 ○多職種に対する歯科の知識の普及等による医療・介護の連携の推進